曲目紹介

＜連弾＞

●モーツァルト（1756―1791）　:アンダンテと変奏曲 ト長調 K501

これは２台のピアノではなく、１台のピアノを２人で弾く連弾のための曲です。連弾は家庭用の用途の曲なので、独奏用の作品よりも軽い性質の曲が多いです。１７８６年の作品。主題と５つの変奏曲が休みなく通して演奏されます。　演奏時間　約８分

＜独奏（高橋）＞

●モーツァルト　：幻想曲　ニ短調　K397

１７８２年の作品。１８０４年に最初に出版された楽譜では第３楽章の最後がニ長調の属七の和音で終わり、その後は空白でしたが、１８０６年の出版譜では最後の１０小節が他の作曲家によって補われています。この部分を演奏家が自分で補完している録音もあります。

第１部分　Andante　　ニ短調　４／４拍子
第２部分　Adagio　　ニ短調　４／４拍子
第３部分　Allegretto　ニ長調　２／４拍子　　演奏時間　約６分

＜独奏（山中）＞

●モーツァルト　：ロンド　ニ長調　K485

１７８６年の作品。有名な曲で、ピアノを習ったことがある方にはおなじみの曲でしょう。

Allegro　ニ長調　４／４拍子　　演奏時間　約５分

＜連弾＞

●モーツァルト　：４手のためのソナタ　ハ長調　K521

モーツァルトの４手連弾用のピアノソナタは５曲あり、ｋ５２１は１７８７年の作品です。

第１楽章　Allegro　　ハ長調　４／４拍子
第２楽章　Andante　　ヘ長調　３／４拍子
第３楽章　Allegretto　　ハ長調　２／４拍子　　演奏時間　約２０分

＜2 台ピアノ＞

●モーツァルト　：２台のピアノのためのソナタ　ニ長調　より

モーツァルトが作曲しようとした 2 台のピアノのためのソナタは複数ありますが、完成したのは今日演奏されるニ長調のこの 1 曲のみとのことです。１７８１年の作品。今回は、第 1 楽章のみが演奏されます。

第１楽章　Allegro con spirito　　ニ長調　４／４拍子　　演奏時間　約８分

本来は、この後に第２楽章　Andante、第３楽章　Molto Allegro が続きます。

●ガーシュイン（１７６編）

ラプソディー・イン・ブルー　～Tribute to the American history

演奏時間　約３０分

ラプソディー・イン・ブルーはアメリカの作曲家ガーシュイン（1898-1937）の最も有名なピアノと管弦楽のための作品です。当時、ガーシュインは、オーケストレーションに不慣れだったためにグローフェ（1892-1972、アメリカの作曲家、組曲“大渓谷”が有名）が編曲を行いました。

作曲、編曲の経緯は

1924 年、ガーシュインが２台ピアノ用に作曲し、グローフェがピアノとジャズバンドのために編曲していきました。（今年はちょうど初演の１００周年！！）その編成は

独奏ピアノ、

木管楽器 3（サクソフォーン、クラリネット、オーボエ、ファゴットを持ち替え）、

金管楽器（ホルン 2、トランペット 2、トロンボーン 2、テューバ）

打楽器、チェレスタ、ピアノ（独奏とは別）、ヴァイオリン 8、バンジョー

1924 年、ガーシュインが 2 台ピアノ用の編曲を完成。

第 1 ピアノは独奏ピアノの楽譜と同一。第 2 ピアノがオーケストラ部分を担当。

1925 年、シンフォニックジャズバンド用の編曲

1926 年、グローフェが通常のオーケストラ用に編曲。

1942 年、上記の版を改定した編曲。現在はこの版での演奏が多いようです。

今回の“１７６”自身による編曲は、上記の１９２４年のガーシュインによる２台ピアノ用の編曲とは異なり、２台のピアノが躍動的に絡み合っていると予想されます。また“カデンツァがアメリカの音楽史を感じさせるようなものになっている”とのことです。

【突然の話題変更】

米子市立図書館で中山七里の小説“いまこそガーシュウィン”（宝島社　2023 年 9 月）を借りて読みました。中山七里にはショパンコンクールのファイナリスト岬洋介（もちろん架空の存在）を探偵役とする、作曲家名をタイトルに含む多くのミステリがあります。

さよならドビュッシー、おやすみラフマニノフ、いつまでもショパン　他、多数。

驚いたことに、“いまこそガーシュウィン”の内容は今回のアンセットシスの企画と同様に

ラプソディー・イン・ブルーを 2 台のピアノで演奏する

となっていました。そのため、上述のラプソディー・イン・ブルーの作・編曲の経緯や初演時の楽器編成などがそのまま小節中に登場しています。（情報の出所が同じだった？）

この小説（雑誌への初出は２０２２年 10 月）とアンセットシスの編曲に何か関係があるのか（どちらかがもう一方に触発されたなど）と思って読み進めると、小説では

2 台のピアノだけへの編曲（今回のアンセットシスの編曲はこれ）

ではなく、

2 台のピアノとオーケストラのための編曲

と分かり、直接の関係は無さそうでした。